

みんなで楽しくスポーツを

No.285 2022年2月



スーパー讃岐っ子育成プログラム
(トランポリン競技体験)
R3.7.24 (高松市総合体育館)
講師：香川県体操協会



かがわドリームスポーツ教室 (バレーボール)
R3.12.11 (綾川町総合運動公園体育館)
講師：植田辰哉氏、眞鍋政義氏、齋藤信治氏、
竹下佳江氏、諸隈直樹氏

喜び合い 讃え合い みんなが笑顔 それがスポーツ



生涯スポーツ指導者養成講座
(障がいのある方とスポーツ「ボッチャ」)
R3.7.4 (香川県青年センター)
講師：かがわ総合リハビリテーションセンター
体育指導員

□ 東京2020オリ・パラ特集

○選手の声

オリンピック ライフル射撃 日本代表 堀水次郎

パラリンピック 車いすフェンシング 日本代表 阿部知里

○支える人の声

塩田友亮、福岡敬晃、二宮和敬

○香川県オリ・パラ教育推進事業

□ わが町のスポーツ自慢

坂出市、多度津町

□ 総合型地域スポーツクラブ紹介

総合型地域スポーツクラブ オリーブ

□ かがわのスポーツ・インフォメーション





「願うは叶う、夢は続く」

東京2020オリンピック
ライフル射撃 日本代表

香川県警察 堀水 宏次郎

高校を卒業後、警察官になった私は、警察学校で射撃を初めて経験しました。警察官になれば必ず行う拳銃の訓練です。最初は銃を撃った時の大きな音に戸惑いましたが、射撃が自分の性格に合っている印象をすぐに受けました。警察学校卒業後、県警察の拳銃特別訓練生に指定されたことから本格的な競技に取り組み、ナショナルチームの人たちと同じ試合に出場する機会も廻ってきました。その時見た、10点を撃ち続けるオリンピックの技術の高さに衝撃を受けた私は、「自分もこんなオリンピック選手になる！」と決意しました。

目標がオリンピックになると、射撃がもっと楽しくなりました。練習をすればするほど上達し、試合では自己ベストを次々と更新していきました。大会はとても緊張しますが、成果を出せたときの達成感は何物にも代えられません。その頃から心掛けていたことの一つに、「射撃ノート」があります。これは、良かった撃ち方を自分の言葉で書き残し、調子の上がらないときなどに読み返すためのものです。そこには、当てるためのヒントがたくさん書かれているので、読み終えたときには「よし、やれる」と自信が持っていました。

用具などを観察することが習慣でした。初めての国際大会の出場は世界選手権で、オリンピックを目指すようになって約3年後のことでした。憧れの選手を間近で見て、感激したのをよく覚えています。その後も、国際大会を経験していく中で、ワールドカップの入賞や、アジア大会でメダルを獲得するなど、世界で戦える実力を着実につけていきました。そして、たくさんの方々の協力もあり、東京2020オリンピック競技大会に出場が決まりました。

オリンピックが決まって、一番うれしかったことは、周囲の人たちが自分のことのように喜んでくれたことです。ずっと夢見ていたオリンピックは自分だけのものではなく、みんなの夢でもあったことに気づき、「射撃を続けてきて本当に良かった」と思えました。そして、多くの方のサポートを受け、万全な状態で競技に臨むことができました。

オリンピック本番は苦しい場面もありましたが、最後まで自分の射撃ができたので良い試合だったと思います。国内・外での経験をオリンピックで生かせることは、これまで以上に最高の経験となりました。

オリンピックはとても感動的です。これからオリンピックを目指そうとする方に、ぜひこの喜びを味わってもらいたいと思います。私がたくさんの人から支えてもらったように、次は自分も選手の力になっていきたい。そう考えるようになり、「オリンピック選手を育てる！」私は今、そんな夢を見ようとしています。





「みんながって みんなうい」

東京2020パラリンピック
車いすフェンシング 日本代表

阿部 知里

私は、10年位前から病気で少しづつ足が動きづらくなり、手術も何度もしましたが、今は車いすを使った生活を送っています。そして、車いすを使うようになってから突然「障がい者」と呼ばれるようになりまし

た。目が悪い人がメガネをかけているのと、足が悪い人が車いすを使っているのと何が違うのだろう。メガネをかけていても、みんなにも気にとめないのに…。

当時、車いすを使うようになったばかりのころは、この先の人生をどうやって生きていったらいいのかわかりませんでした。日常生活のすべてが、今までのようにスムーズにできなくて、行きたいところにも行けなくて、やりたいこともできなくて、本当に苦しかった…。

周りからは「前を向いて頑張っ

て」って言われるけれど、どっちが前でどっちが後ろなのかも分からな

くて。将来の夢や希望が一気に崩れ落ちてしまつて、生きているのが苦しい、そんな心境でした。車いすの中で、自由がなくなつたように感じていた私は、その不自由さから少しでも解放されたい、自由に動きたいとの想いから、いくつかのスポーツを体験し、その中の一つにフェンシングがありました。そこで、バルセロナオリンピックとアトランタオリンピックに出場経験

のある市ヶ谷廣輝先生に出逢つたことで、私のアスリートとしての新しい人生が始まりました。「目標をどこに置くかで頑張り方が変わってくる。どうせやるならパラリンピックを指してみよう」と言われました。そして、障がいとか車いすとか、なにも気にせず対等に関わり、普通に接してくれるフェンシング仲間がいることも、大きな支えとなりました。

歩けなくなつて心が苦しかった時

に見放さずに支え続けてくれたりハビリの先生、パラリンピックを指すきっかけを与えてくれた先生、フェンシングの楽しさやまた楽しく笑うことを教えてくれた仲間たち。車いすになつてから、たくさん心配をかけてきた人たちに「パラリンピックに出場することで恩返しをしたい」との想いで、目標に向かって全力を尽くしてきました。パラリンピックへの出場が決まつて、みんなが喜んでくれたときは本当にうれしかったです。

2021年8月、東京2020パラリンピックに出場してきました。「今までの想いをすべて出し切り、全力を尽くすこと」を目標に出場した2種目。サーブル10位・フルーレ14位という結果でした。

東京2020パラリンピックの選手村や競技会場では、国籍も性別も年齢も、車いすでも義足でも、目が見えても見えなくても、手足があつてもなくても、なにも関係ないしなにも気になりませんでした。その人と、人として関わり、話をするから、お互いになにも気にならない。人として尊重されることに、とても心地よさを感じました。

身体の色や形がどうであろう

と、そこにはたくさんの方のメダリストたちがいました。何個ものメダルをかけている人もいます。「Congratulations!!」互いに知っている人も知らない人も、みんなが声をかけ合い、喜び合い、たたえ合います。みんなが笑顔で輝いています。多様性があり、その人自身を認め合おう、とても素晴らしい世界でした。

国際パラリンピック委員会（IPC）は提唱しています。「Impossible」は提唱しています。「Impossible」そこに少し工夫をすれば「I'm possible」に変わります。この「I'm possible」のように、少しの工夫や理解や配慮が大きな変化になるのです。

「みんながって みんないい」
今大会をきっかけに、どんな人も生きづらさを感じずに、もつと自分らしく生きられるような、そんな世の中になつたらいいなと思っています。

* Impossible：不可能・できない
* I'm possible：可能・私ができる



『東京2020パラリンピック 競技大会に参加して』



香川大学教育学部 附属特別支援学校
教諭 塩田 友亮

昨年の夏、オリンピック、パラリンピックが開催されました。テレビで観戦した方も多いと思います。そのパラリンピックに、陸上競技の知的障がいクラスの総務兼コーチとして参加しました。

私は現在、「特定非営利活動法人 日本知的障がい者陸上競技連盟」の理事及び強化委員長をしております。元々は県内で全国障害者スポーツ大会に向けて特別支援学校の在校生や卒業生の陸上指導をしていましたが、その中で何人かの選手が強化指定選手になり、強化合宿に引率することになったことです。はじめは観客席から眺めていただけでしたが、何度か引率するうちに、ちょっとお手伝いのつもりでグラウンドに

降りたら、それからあれよあれよと十数年が経っていました。

パラリンピックには、知的障がいクラスに男女合わせて8名が出場しました。彼らは世界ランキングなどの基準をクリアして参加に至るまで、し烈な戦いをしてきました。前回のリオパラリンピックでは3名の選手が出場しましたが、今回、8名も出場できたのは日本の知的障がい者の陸上競技レベルが高くなった証です。

大会の結果としては4位入賞2種目(女子1500m、男子走幅跳(日本新))、5位入賞1種目(男子1500m)、6位入賞1種目(女子1500m)、7位入賞2種目(女子400m、女子1500m)、8位入賞1種目(男子1500m)でした。残念ながらメダルを獲得することはできませんでしたが、どの選手も今持てる力を十分に発揮したと思います。

私はパラリンピックには初めて参加しましたが、日本開催ということもあり、日本語が通じたことや選手村の食堂の食べ物がおいしかったことなど、海外における大会で苦労し

ていたことが今回はなく、競技に集中できました。また、ボランティアを含めたスタッフの皆さんの対応が素晴らしいと感じました。その一つの理由は「挨拶」です。我々日本人にだけでなく、外国人に対しても本当によく挨拶をされていました。これは私がこれまで参加した国際大会の中では一番よいものでした。

選手8名は高等学校を卒業している選手もいますが、ほとんどは特別支援学校の卒業生で、一般の会社や特例子会社に就職したり福祉事業所に通所したりしている選手もいます。そして家族の支援や様々な関係機関の支援を受けながら、生活や競技を続けています。これは県下の特別支援学校の卒業生と何ら変わらないです。過去には香川県の複数の選手が国際大会(知的障がい者の世界選手権)に日本代表選手として参加し、リレーでは世界1位(現在も日本記録です)になったこともありま

す。皆さんも陸上に限らず、また運動に限らず、何かにチャレンジしてほしいと思います。

私はこれまで知的障がい者の陸上競技のレベル向上やパラリンピック

でのメダル獲得に向けて取り組んできましたが、次こそはパラリンピックでメダル獲得ができるように更なる強化をしていきたいと思っています。

今回のパラリンピックではこれまでになくテレビで多くの時間、中継がありました。障がいのある人をはじめ、人類の多様性について考える機会になったり、障がいのあるなしに関わらず、何かにチャレンジすることの素晴らしさを改めて感じたりしたのではないのでしょうか。私自身、今回の貴重な経験で得られたものをこれからの学校等での指導現場で生かしていこうと思っています。





東京2020オリンピック ビーチバレーボール競技役員

福岡 敬晃

無観客の会場に響く大音量の音楽と真夏の日差しが照らす真っ白な砂のコートの中、選手入場を終えた審判団は「High volume」と視線を交わし、親指を立てた「good sign」で準備OK! いよいよ東京オリンピック「ビーチバレーボール競技」が始まります。

私は普段は建設業界で働く傍ら、もともと好きで始めたバレーボールの国内A級審判員としてインドアの県内大会などでの活動の他、現在はビーチバレーボールが専門で、一昨年から国内のBVTI（プロのビーチバレーボールツアー）のオフィシャル審判員としても活動しております。

今回の東京オリンピックはコロナ禍ということもあり、とても制限の多い大会でした。我々審判団はホテルと会場以外の外出は禁止でしたし、選手との会話は主審・副審のみ。私が担当していたラインジャッジや他の審判関係者、ボランティア

の方々、会場スタッフは炎天下の中でのマスクの着用。もちろん出場選手も感染対策がとでも大変だったと思います。その分今回のビーチバレーボール競技に携わった方々全員が「なんとかこの状況下で選手の為にオリンピックを成功させよう!」という強い思いがありました。そのおかげでビーチバレーボール競技の審判団はワンチームになれたと思います。

これはどの競技にも共通することです。国内での大会も大小に関わらず、携わる人すべてが「選手ファースト」という言葉を心がけていければ、その大会は選手にとって素晴らしい大会になるということを学びました。

最後に、東京オリンピック「ビーチバレーボール競技」に携われたことは、自分の審判員活動の中で最高に幸せな時間でした。そして今まで指導して下さった上級審判員の先生方や、推薦して頂いた香川県バレーボール協会の萱原審判委員長に感謝したいと思います。

今回学んだ教訓を今後の審判活動に生かせるように頑張りたいと思います。



東京2020パラリンピック バドミントン競技役員

二宮 和敬

「頑張つて!」「楽しんで!」公式ウエアー配付時、ID交付時、移動バス乗降時、会場駐車場から会場内等々、至る所で大勢のスタッフやボランティアの方が、私に向かって笑顔で声をかけてくれました。しかし、私は選手ではありません。バドミントン競技技術役員の線審として参加をしました。私も大会を支える側であるにも関わらず、まるで選手になったような気持ちになり、気分が高揚していきました。さらに毎朝会場では、全員で軽快な音楽にのせてダンスを踊り、その様子を生で会場スクリーンに流す演出が行われ、業務内容は違えども大会スタッフ全員

の一体感が増していきました。さて、私が担当した線審業務はというと、1日に5試合担当する日もあり、午前7時に出発し午後11時にホテルに着く日もありました。拘束時間が長く、試合の緊張感もあり大変なこともありましたが、海外からの派遣線審の方の取り組み方が印象

的でした。空き時間に自分の国がわかる物やお菓子を交換しあうなど、積極的にコミュニケーションをとる、大会を1つのイベントとして楽しんでいるのです。彼らと接することで、私も緊張感を楽しめるようになっていきました。

現在、私はインターハイの準備業務をしています。24年前の四国98総体に地元選手として参加した大会に、今回は支える側として携わっています。このパラリンピックで体験した、選手・運営・観客等大会に関わる全ての人達が楽しめる雰囲気作りを、今の仕事に生かしていきたいと思っています。



1 オリ・パラ教育について


本県では、スポーツ庁の委託を受け、平成30年度からオリ・パラ教育推進事業を行っています。今年度は小学校14校、中学校3校、高等学校2校の計19校を推進校に指定し、オリ・パラ教育の実践研究に取り組んでいただきました。そこで、推進校の取組みを中心に、本県のオリ・パラ教育について紹介します。

2 オリ・パラ教育の学習の流れ

子どもたちがオリ・パラ教育を深く学べるように、「事前学習」－「中心学習」－「事後学習」の流れで、授業が行われています。ここでは、事前学習は、三豊市立勝間小学校の実践を、中心学習・事後学習は、高松市立鶴尾小学校の実践を紹介します。

事前学習

オリ・パラについての学習



東京オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチを活用して、オリ・パラへの関心を高めました。

中心学習

シッティングバレーボール体験



シッティングバレーボールを通して、近隣の小学校と楽しく交流するためには、お互いを良く知ることやポジティブな声かけが必要なことを学びました。

事後学習

近隣の小学校との交流会




相手のことをよく知ることで、言葉かけやプレーが変わり、参加者みんなが楽しくプレーできるということを体験の中で伝えました。

3 オンラインを活用した取組み

今年度はコロナ禍で、県外の講師に直接指導をしてもらうことが難しい中、講師にオンラインを活用して講演をしていただいたり、3校をオンラインでつなぎ同時刻にスタートする「全校フルマラソンチャレンジ」をしたりするなど、工夫された授業が行われています。

オンライン講演会



オンラインで、ロンドンパラリンピックゴールボール金メダリストの安達阿記子選手に講演をしていただきました。(丸亀市立城東小学校)

3校合同「全校フルマラソンチャレンジ」



3校をオンラインでつなぎ、同時刻にスタートし、さらに、エール交換をすることで交流が深まり、盛り上がりのある「フルマラソンチャレンジ」となりました。
【参加校：三豊市立下高瀬小学校（写真）・三豊市立勝間小学校・三豊市立上高瀬小学校】

4 推進校に派遣した講師

(1) 講演講師

県内講師		県外講師	
木村和史選手（短距離走）	3回	田口侑治選手（ゴールボール）	1回
田中 司選手（パラ陸上）	1回	【オンライン】	
皆見信博選手（パラ卓球）	1回	安達阿記子選手（ゴールボール）	1回
今井航一選手（パラカヌー）	2回	廣瀬悠・順子選手（パラ柔道）	1回



田中司選手（パラ陸上）の講演・実演
～丸亀市立富熊小学校～

(2) パラスポーツ体験

- 派遣校数：車いすバスケットボール体験4校、ボッチャ体験3校、シッティングバレーボール体験2校
- 講師：車いすバスケットボール・シッティングバレーボール
……一般社団法人IINE（いいね）
ボッチャ……香川県ボッチャ協会



ボッチャ体験
～高松市立香南小学校～

坂出市

『カヌーのまち坂出』

みなさんは、本市が「カヌーのまち」として全国にアピールしているのをご存知でしょうか。坂出市は県内で唯一、日本有数のカヌー競技場を有しています。その坂出市府中湖カヌー競技場では、毎年3月にカヌー競技のオープン戦となる全国大会が開催されています。また、昨年、東京オリンピックの際にはここを国内調整の拠点とした世界のカヌー強豪国であるハンガリーチームが、カヌープリント競技参加国で金メダルを含む最多のメダルを獲得しました。

そんな坂出市内には全国でも珍しいカヌー部を有する学校もあり、高校2校、中学校1校、クラブチーム1団体が活動しています。

その中でもクラブチームである府中湖カヌークラブは毎週土日の13時半から坂出市内外問わず、子どもからご年配まで様々な年齢の方が集まって活動しています。活動内容も競技として日本一を目指す選手がいる一方、水面をゆったりと漕いでレ

ジャーとして楽しむ方など各々がカヌーの楽しみ方ややりがいを見つけ、活動されています。

ぜひカヌーに興味のある方がいましたら府中湖カヌークラブと一緒にカヌーを漕ぎ、自分なりの楽しみ方を発見してみてくださいはいかがでしょうか。

さらに、今年は高校スポーツの祭典でもある全国高校総体（インターハイ）カヌースプリント競技が8月1日から6日まで坂出市で開催されることとなっています。また、夏場には一般向けのカヌー体験も開催していますのでぜひチェックしてみてください。



連絡先 坂出市教育委員会生涯学習課
電話 0877-44-5025
FAX 0877-46-7140

多度津町

『ファミリー健康ウォーク』

多度津町では、毎年12月上旬頃に、公民館行事の一つとして「ファミリー健康ウォーク」を実施しています。スポーツ推進委員さんにスタッフとしてご協力いただき、親子連れはもちろん、老若男女問わず、毎年多くの方々にご参加いただいております。

今年も、中央公民館を出発し、新しく開通した県道多度津丸亀線を通り、四箇公民館を経由し、弘田川堤防を通り、白方公民館・海岸寺郵便局・熊手八幡宮を経由し、城ケ下を通り、中央公民館へ戻って来るというおよそ10kmのコースを歩きます。

今回、ご参加いただいた方の中に、「最近では、コロナのせいでどこにも行けず、ストレスが溜まる一方だったから、このイベントに参加してすぐスッキリした」と伝えてくれた人がいました。そこで、体を動かすということ、体が健康になるだけでなく、心も健康になるのだなと感

めて感じることができました。

自分一人だと参加を躊躇する人も、知り合いとなら、子どもと一緒に、参加してみようと考えた人は多くいると思うので、周りの方々とどんどん誘って、一人でも多く健康・体力づくりに関心を持ち、心身ともにスッキリしていただけるよう、今後も思考を凝らしながら続けていきたいと思っています。



連絡先 多度津町教育委員会教育課
電話 0877-33-0700
FAX 0877-33-0600

総合型地域スポーツクラブ 「オリーブ」

総合型地域スポーツクラブオリーブは、2005年日本体育協会（現日本スポーツ協会）の総合型地域スポーツクラブ育成推進事業指定クラブに認定され、活動拠点を三豊市高瀬町に置き、「いつでも だれもが 楽しくスポーツを楽しめる環境を作ろう」を目標に2007年2月18日設立総会を開催し活動をスタートさせました。

オリーブの活動には大きく分けて、「スポーツ教室の開催」、「スポーツ大会の運営」、「文化活動教室の開催」、「地域の活性化に関する活動」の4つを行っています。

スポーツ教室では、幼児小学生対象のサッカー教室を高瀬町の四国学院大学香川西高校サッカーグラウンド、宇多津町のグラウンドにおいて行っています。

高瀬教室では、低学年の子供たちの指導を、高校生サッカー部員がボランティアでコーチをしています。「楽しい。もっとやりたい」と思う気持ちを大切に基礎練習に加え子どもたちの大好きなしっぽ取りゲーム、サーキットゲーム等身体を動かす事の楽しさを感じてもらいながら、わ

くわくするような教室を目指し安全でサッカーに取り組める環境を作っています。子どもたちは高校生コーチの技を見てあんな風になりたいと憧れを抱きます。高校生コーチは一生懸命頑張る子どもたちの姿を見て「将来指導者になりたい」と夢を持つこともあります。

また教室では子どもたちの仲間づくり、保護者間のつながりも大切に考えレクリエーションも行っています。コロナ流行前には、核家族で行われにくくなった季節の行事（鏡開き、七夕等）も祖父母の方のご協力を得て行っています。

高瀬町の夏祭りに高校生チアリーダーと子どもたち、保護者一緒に参加しました。人と人とのつながりが希薄化されている現代において世代を超えた踊りで地域を盛り上げるこ

とが出来ました。宇多津教室では、「パウロサッカー教室」を開催しています。「もっとうまくなりたい」という子どもたちが所属クラブの垣根を越えて複数クラブから練習に参加しています。子どもたちの熱い思いに答えられるよう指導には、Jリーグでのコーチ経験のあるブラジル人コーチが担当しています。練習後にはコーチのJリーグ時代の話、ブラジルの子どもの話等、熱心に聞きサッカーへの情熱をさらに燃やしている子どもたち

の姿が見られます。

大人向けスポーツ教室では、コロナのため多人数で集まる事が出来にくくなった一昨年からスイミング教室に代わってウォーキング教室を開催しています。生活習慣病の予防、ストレス解消やリフレッシュ効果が期待できる「ゆつくり歩き」をペースとして、いくつかのコースを用意しています。コースはラジオ体操を組み合わせたものや近くの神社をめぐるもの、山道にチャレンジするものなど参加者に応じた距離を楽しく歩けるものになりました。

「スポーツ大会の運営」では、毎年6月第4土曜日、日曜日に三豊市高瀬町の緑が丘サッカー場において「オリーブ杯ジュニアサッカー大会」を開催しています。県内外から小学生12チーム250名余りが参加し大会を行っています。試合の勝ち負けだけではなく、選手間、指導者間の交流の場となるよう大会運営を心がけています。一刻も早く状況が落ち着き子どもたちの笑顔あふれる大会を再び開催出来ることを願っています。

「文化活動教室の開催」では、手芸教室とパン教室を開催しています。手芸教室では「和の会いちご」「和の会ひらり」として地域の高齢者と一緒に教室で作ったお手玉を、介護施設にプレゼントしました。また作品の発表の場として宇多津町で行われるお雛様

イベントや坂出駅前で開催されている楽市楽座に出品しています。

パン作り教室では、毎年夏休みに「親子パン教室」を開催し10組ほどの親子がピザや動物パンを作っています。毎年参加してくれる親子もあり、保護者からは「親子の良いコミュニケーションになった」との声も聞かれます。

オリーブは令和2年度、香川県教育委員会より教育文化功労者表彰を受け今後の活動の励みになっています。クラブハウス、専用グラウンド等様々な課題もありますが、総合型地域スポーツクラブオリーブとしての活動を充実させていきたいと思



パン教室の様子



サッカー教室
(1年生大会)



手芸教室の作品展示



連絡先

総合型地域スポーツクラブオリーブ
住所 坂出市富士見町1-6-5
電話 090-3789-7965

かがわのスポーツ・インフォメーション

生涯スポーツ指導者 養成講座

生涯スポーツの積極的な推進や高度化・多様化するニーズに対応できる指導者の養成を目的に、6日間の講座を開催しました。

10/3	9/25	9/19	7/4	6/27	6/20	
指導者の役割Ⅰ スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ 日本体育大学 成田 和穂	総合型地域スポーツクラブについて 県広域スポーツセンター クラブアドバイザー 山家 春香 ジュニア期のスポーツ・ 指導計画と安全管理 高松大学 田中 美季	トレーニング論Ⅰ・スポーツと栄養 文化としてのスポーツ・ 地域におけるスポーツ振興 神戸親和女子大学 田中 聡	障がいのある方とスポーツ かがわ総合リハビリテーションセンター アクティブチャイルドプログラム あそび塾とむそや 光吉 直哉 澤 宣英	競技力向上・傷害予防のための トレーニング・コンディショニング 松本接骨院 松本 和子 香川トレーナー協会 阿部 純也	健康づくり運動の理論と実践 日本エアロビック連盟 塩津 陽子 テレーピング基礎 日赤香川県支部	令和3年度内容 救急法



講座風景



昨年に引き続き、マスクの着用やこまめな手指消毒、検温の実施等、新型コロナウイルス感染症の感染防止策をとりながらの実施となりました。

スポーツに関する理論と実技についての研修を修了した14名の方々に県教育委員会から修了証が授与されました。また、公益財団法人 日本スポーツ協会のスポーツ指導者資格である、「スポーツリーダー」に19名の方が認定されました。

総合型地域スポーツ クラブマネジャー 養成講習会

令和3年度総合型地域スポーツクラブマネジャー養成講習会を、12月4日、5日に開催しました。

この講習会は、総合型地域スポーツクラブの創設や運営において中心的役割を果たすクラブマネジャーと、それを補佐するアシスタントマネジャーの育成を目的とし、7名が参加し7名が修了されました。

既存のクラブに所属されている方やクラブの活動に興味がある方が参加していただきました。修了された皆様、修了おめでとうございます。それぞれの地域やクラブにおいて活躍されることを期待しております。



12/5	12/4	
実践事例 一般社団法人スポーツリンク白川 理事・クラブマネジャー 渡辺 靖代	実践事例 香川県広域スポーツセンター クラブアドバイザー 山家 春香	令和3年度講義内容 地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの現状 立命館大学スポーツ健康科学部 教授 長積 仁 クラブマネジャーの役割 龍谷大学経営学部 教授 松永 敬子
クラブのつくり方 特定非営利活動法人 しまもとバンブークラブ 理事 国立大学法人大阪教育大学 附属高等学校 平野校舎 教諭 松田 雅彦		

令和3年度かがわ ドリームスポーツ教室 （バレーボール）開催！

将来、オリンピックなどの国際大会に出場し活躍できる本県出身選手を育てることを目的とした「かがわドリームスポーツ教室（バレーボール）」が12月11日（土）綾川町総合運動公園体育館で開催されました。

東かがわ市出身で、バレーボール元男子日本代表監督の植田辰哉さん、女子日本代表監督の眞鍋政義さん、元日本代表の齋藤信治さん、竹下佳江さん、諸隈直樹さんの5名が講師を務めました。

この教室は平成26年度から始まり、今回で8回目の開催となります。今回は、中学生の県強化指定選手65名の参加による強化練習会と指導者講習会、午後からは、小学生64名の参加によるバレーボール教室が行われました。

参加した選手は、講師の熱のあった指導のもと、元気いっぱい活動し、さわやかな汗を流しました。



「スーパー讃岐っ子育成事業」 四国ジュニアアスリート キャンプ in 香川

「スーパー讃岐っ子育成事業」は、将来、国際舞台で活躍する本県選手を育てるため、スポーツの豊かな素質をもつ小学生を発掘・育成する取り組みです。

11月21日（日）に、東かがわ市のとらまるてぶくろ体育館で「四国ジュニアアスリートキャンプ in 香川」が開催されました。

このプログラムは、同年代のジュニアアスリートとともに活動することで、良い刺激を与え合い、個々のより一層の成長へのきっかけづくりの場を目指すことを目的としています。

香川県の「スーパー讃岐っ子」、愛媛県の「えひめ愛顔のジュニアアスリート」、高知県の「高知くろしおキッズ」のジュニアアスリート（小学5年生）約50名が参加しました。

今回は、香川銀行チームハンドの皆さんを講師としてお招きし、ハンドボールの競技体験を行いました。

午前中は楽しく交流しながらのウォーミングアップから始まり、パスやシュート時のステップの踏み方など、基本的な動作の練習をしまし



た。また、パスをつなぎながら、ディフェンスの対応を見てシュートチャンスを作る練習などを行いました。午後からは3県合同のチーム編成でゲームを行いました。午前中に学んだパスやシュートなどをうまく使いこなし、白熱したゲームとなりました。

他県のジュニアアスリートとハンドボール競技の体験を通じて、良い刺激を受けることができました。

かがわのスポーツ・インフォメーション

令和4年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を支える高校生活動

令和4年度全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）では、競技に出場「する」高校生のみならず、「支える」の観点から開催県の高校生が積極的に大会の成功に向けて取り組んでいます。

活動内容は、広報、総合案内所設置・運営、カウントダウンボードや記念品の製作、観光地や地元物産のPR、大会運営補助、式典放送、草花装飾、環境美化など多岐に渡ります。大会を応援する際は、大会を支える高校生たちの頑張りにも、ぜひ注目してください。

香川県高校生活動推進委員会の各グループ



おもてなし



イベント・交流



広報



手づくり記念品

高校生活動の様子



企画・協議



広報活動



清掃奉仕活動



草花装飾

カウントダウンボード



JR 高松駅



イオンモール綾川



ことでん瓦町駅



JR 丸亀駅

競技種目別大会ポスター原画最優秀受賞作品



新体操



バスケットボール



バレーボール



登山



自転車



フェンシング



アーチェリー



なぎなた



カヌー



つなげていきます スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

